

2024 ひろしま避難者の会「アスチカ」会員情報のまとめとアンケート(配布用)

2024.3.11

ひろしま避難者の会「アスチカ」

【ひろしま避難者の会「アスチカ」とは？】

避難者による避難者のための会です。

東日本大震災の地震や津波、東京電力福島第一原発事故の避難者がここ広島で生活の基盤や気持ちを整えたり、同じ思いの仲間を見つけたりしながら、避難生活を落ち着かせ、次のステップへ踏み出すことをサポートする当事者団体として設立しました。現在、アスチカには 96 世帯 312 名の避難者が登録しています。

※「アスチカ」＝「明日へすすむ力」

表1 広島県把握の避難者数

	世帯数(人数)	%
岩手	3 (9)	2.6
宮城	6 (18)	5.1
福島	68 (187)	58.1
その他(関東地方など)	40 (110)	34.2
計	117 (310)	

2024年3月1日

※表1の人数は全国避難者情報システム(総務省)への本人からの届け出により把握されている人数です。すべての避難・移住者が登録しているものではありません。広島県にも未登録の避難者が数多くいます。また、本人の意思で登録解除をされる方もいます。登録後、避難先で転居した際に登録情報の変更連絡が必要なことや正しい連絡方法の認知が低く、知らない間に登録から外れていることがあり、再登録のサポートをすることもあります。

表2 アスチカ会員世帯 避難元別

	世帯数(人数)	%
岩手	0 (0)	0.0%
宮城	8 (25)	8.3%
福島	46 (147)	47.9%
関東地方	42 (140)	43.8%
計	96 (314)	

2024年2月29日

96世帯のうち4世帯は現在他県在住。広島から他の土地へ移られても情報の獲得やつながりを維持したい方は会員(準)として登録いただいています。

表3 アスチカ会員 世帯状況

	世帯数	%
単身	8	8.3%
大人のみ	21	21.9%
大人+子ども世帯	67	69.8%
(うち母子世帯)	17	17.7%

子どもは18歳未満をカウント。

	世帯数	%
--	-----	---

アスチカ会員アンケート結果 回収数 28世帯／世帯(回収率29.2%)
 2月22日(木)郵送により配布 3月9日(土)までの回答分を集計

Q1 現在お住まいの住宅はどれに当てはまりますか？

	回答数	%
県営住宅	3	10.7
市・町営住宅	3	10.7
ビレッジハウス(旧雇用促進住宅)	1	3.6
実家、親戚宅	3	10.7
持ち家	9	32.1
民間賃貸住宅	8	28.6
その他	1	3.6

(その他)・親の持ち家

Q2 世帯の18歳以上の方の就業状況

	回答数		回答数
正社員	8	アルバイト	1
公務員(正規)	1	専業主婦・主夫	1
公務員(非正規)	1	学生	8
契約・嘱託社員	0	求職中	0
派遣社員	1	無職	6
自営業	11	その他	0
パート	4	無回答	2

・「無職」には年金生活者も含む。
 ・「自営業」の割合が高め

Q3 生活面(住まい・仕事など)に関して、ご自由にお書きください。(お悩みやおもうことなど)

- ・仕事は落ち着いています。生活にも特に不安や悩みはありません。ただ、「自分たちで家を買う、かまえる」ことには結局踏み切れないかもしれないと思うようになりました。
- ・すぐく余裕があるわけではないけれど、特別困ることはなく、安定しています。
- ・相変わらず生活はなかなか余裕ができませんが好きなことをして生活していけているので幸せです。
- ・今は恵まれた環境で働いているため悩みは特にありません。いかにして健康を保ちながら生きていけるかを考えています。
- ・体調が悪いので、仕事を見つけることができない。
- ・子ども達も大きくなり、手狭になってきたので引っ越しを検討したいと思います。
- ・子どもが大きくなってきて、この先どこに住もうか、家はどうか考えることが多くなってきました。
- ・経験や資格を生かした仕事がしたいが何をしようかハッキリしない。
- ・仕事＝時給から月給になったのは、祝日や年末年始の影響受けずに助かりました。

Q4 ご家族の中(避難元の親御さんなども含め)で健康に不安のある方はいらっしゃいますか？

	回答数	%
はい	7	25.0
いいえ	19	67.9
無回答	2	7.1

50代世帯が増えるにつれ自身や夫婦の健康状態について心配している声徐徐に増えている。

Q5 今後のご予定は決まっていますか？

	回答数	%
今住んでいる自治体へ定住	13	46.4
避難元ではないところへ移動	1	3.6
避難元へ戻る	0	0.0
決めていない	13	46.4
上記に当てはまらない	0	0.0
無回答	1	3.6

① 避難元に帰りたい：0
 ② 避難先に定住したい：10
 ③ 選択なし：3

(今住んでいる自治体に定住)

子どもの進学・学校の都合 / 主人の仕事次第 / 広島が好きになり、生活も慣れた / 起業したため / 仕事があるから / 暮らしやすい / 家・マンションを買ったので

(避難元ではないところへ移動)

娘の就職により来年の4月ごろに引っ越す予定

(決めていない) ※①避難元に帰りたい ②避難先に定住したい ③選択なし

②避難先に定住したい

- ・仕事、生活、子どもの学校生活が落ち着いているから。首都圏で災害にあうことへの恐怖があるから。
- ・正直、先のことはどうなるかはわかりませんが、おそらくこのまま定住予定でいます。
- ・安心して暮らせる(ので定住できたらよい)
- ・自給自足に近い生活をしたいので(避難元に戻る選択は難しい)。
- ・広島に家を購入したので(このままこちらで定住できるならしたい)
- ・避難元の親に「もう戻らない」と断言するのが申し訳ない気持ちはずっとある。今はもう戻らないのだろうと思われていると思う。

「定住」「定住したい」がほとんど。
 昨年の回答から変更されている方も。それぞれの家庭で、仕事や子どもの教育などの状況から方向転換されている様子も見られる。
 「定住」、「定住したい」という回答でも、のちの項目で避難元の親となかなか会えないことやこれからの介護について考えている方は多い。

Q6 今、大変だと感じていること・困っていることは何ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
仕事が見つからない	2	7.1
仕事にやりがいを感じない	2	7.1
生活費が足りない	5	17.9
支援が縮小していくこと	3	10.7
避難指示が解除されたこと	0	0.0
体調不良	3	10.7
忙しすぎる・自分の時間がないこと	5	17.9
親の介護	3	10.7
育児	0	0.0
子どもの教育・進路	3	10.7
家族バラバラに暮らしていること	5	17.9
避難元の親・親戚・友人になかなか会えないこと	12	42.9
心の余裕のなさ・精神的な不安定さ	6	21.4
家族間の意見の不一致(夫婦間、パートナーと自分)	1	3.6
家族間の意見の不一致(自分と親)	0	0.0
家族間の意見の不一致(自分と子ども)	0	0.0
避難元が復興しないこと	0	0.0
避難元の復興が望む形と違うこと	0	0.0
避難元に帰れないこと	1	3.6
(直近で)避難元に帰ろうと思うが、具体的にどうすればいいのかわからない。	0	0.0
今住む地域に親しい友人がいないこと	2	7.1
避難元の友人と疎遠になってしまったこと	8	28.6
震災や原発事故のことが世間から忘れられているように感じる	11	39.3
原発が再稼働されたこと	7	25.0
避難先の人たちと意識の差を感じる	7	25.0
避難への無理解	2	7.1
特になし	2	7.1
その他	0	0.0
無回答	1	3.6

避難元にいる人との関係に寂しさを感じている様子は依然強い。

日々の生活のしんどさを伝える選択も変わらずある。

「震災や原発事故のことが…」は「自分たちの存在を忘れられている」ということではなく、「震災や原発事故があったことを忘れてしまったかのような世の中の動き、選択、ビジョン」に違和感を持っているという意味合いが強いと思われる。

Q7 今後、どんなことに不安やお悩みがありますか？

(複数回答あり)

	回答数	%
避難先の生活が安定するか	5	17.9
自分の健康が保てるか	14	50.0
家族の健康が保てるか	8	28.6
避難し続けられるか	1	3.6
公的支援がいつまで続くか	3	10.7
避難指示が解除されること	0	0.0
子どもをしっかり育てられるか	0	0.0
子どもの教育・進路	6	21.4
家族と一緒に暮らせるか	3	10.7
夫婦の関係が悪化しないか	1	3.6
避難元の親・親族との関係、付き合い	6	21.4
避難元へ帰れるか	0	0.0
避難元へ帰らなければいけないこと	0	0.0
避難元へ帰った時に孤立しないか	0	0.0
避難元にいる親の老後・介護	10	35.7
避難先での人間関係	3	10.7
自分の老後	9	32.1
子育て後の身の振り方	3	10.7
特になし	0	0.0
その他	1	3.6
無回答	1	3.6

(その他・自由記入)

- ・みんなの健康や子どもの教育などはどこに住んでも誰でも不安になることではないかと考えていますが。
- ・今後をあまり考えてもしょうがない、とも思う。

■ 最近、子育てを終えた後の自分についていろいろと思いを巡らしているお話を聞くことが増えました。子育て後についての思いやお悩み、迷いなどあればお聞かせください。

- ・子育てが終わるころ、仕事も定年に近づくので、今後どのように生活していったらよいか考えることがある。
- ・子どもが進学や就職で帰京した場合、夫婦はどこに住むのがベストかと考えます。子ども達の健康面を考えたの避難だったので。
- ・生活費、仕事はどうでしょうか？家はどうでしょうか？そもそもどこに住む？親の介護問題等々…いろいろ不安(決まっていないから)ですが、楽しく行きたいと思ってる！
- ・遊びです！子どもが何をするか、どうなるのか、楽しみです。
- ・現在、二重生活。今後、子どもが進学や就職で家を出たら、私が一人で広島に暮らすのもどうなのかと思うが、私も広島で得た仕事がある。夫は定年退職後広島で暮らすことを希望。子ども達も小さいころからの広島生活なので「帰省するなら広島」と思っている様子。全員一人暮らしの状況が来るかもしれないです。

自分の健康のチェックが一番多かった。この場合の「自分」は1人世帯の本人や各家庭の母親のことが多い。避難世帯の年齢が上がり、体の衰えも感じることから自分や夫婦の健康維持への不安を感じるが増えているよう。

今年、「自分の老後」「子育て後の身の振り方」という選択肢を新たに加えた。3.11 当時幼稚園児・保育園児だった子どもも成人する時期になり「子どもが成長する環境を思っ縁のない広島へ避難してきたが、その子どもが巣立ったら、自分が広島にいる理由がなくなる」という声を聞いたことから加えた。避難元の親への心配は今年も回答数が多い。避難元との関係、子どもの教育・進路はここでも課題になっている。

Q8 震災から間もなく13年の時期になって、変化してきたことは何ですか？良いことでも悪いことでも気づきがあれば教えてください。(複数回答可)

(複数回答あり)

	回答数	%
気持ちが穏やかになってきた	6	21.4
あきらめのような気持ちが強くなった	8	28.6
生活が安定してきた	10	35.7
楽しいことをしようという気持ちになってきた	7	25.0
無気力になってきた	1	3.6
前向きな気持ちになってきた	7	25.0
将来への不安が強くなった	5	17.9
広島に定住する気持ちが固まった	6	21.4
避難元へ帰りたい気持ちが強くなった	1	3.6
怒りが強くなった	1	3.6
変化はない	3	10.7
その他	3	10.7
無回答	1	3.6

(その他)

- ・先々のことで考えたとしても確かなことはないけれど、変化にあわせて適度にあきらめ適応しつつやっていた自分になっていることに最近気づきました。
- ・良くも悪くも前向きになろうという気持ちとあきらめみたいな気持ちが行ったり来たりしているというのが現状です。
- ・13年前から止まったままの心と、13年歩んできた心が同居している感じです。
- ・福島に戻るという選択肢はなくなりました。

前向きさを感じる気持ちと「あきらめのような気持ち」に二極化しているというより、いずれも同居しているような心情を持つ人が多い。

Q9 避難・避難後の生活で、あってよかった支援、欲しい or 欲しかった支援は何ですか？

あってよかった支援

住宅支援、家賃補助 / ふるさと架け橋ツアー（避難元情報を得るためツアー） / 旅費支援（民間）
/ 避難者同士の交流会 / 家電の支援 / 生活応援品 / JAのお米の無料支援
/ アスチカがあったこと・アスチカのお便り / 甲状腺エコー検査（体験会含む）
/ ナイトズー（安佐動物公園） / グリーンピアせとうちの風呂無料

- ・アスチカのおかげで避難している同志たちの様子を知ることができてよかった。
- ・避難元で自衛隊が支援に入ってくれたこと
- ・10年ほど前、子どもが小さかった時、交流会で避難のことを話せたり、大学生に子供を見てもらえたりといった機会があったことを感謝しています。

欲しい・欲しかった支援

住宅提供してくれる自治体の情報 / 家賃助成 / 仕事探しのサポート / ヨウ素剤
/ ガソリン

- ・関東からの避難に対しても住居、引っ越し等に関わる支援
- ・赤十字の家電の支援が公営住宅に避難した人だけだったので受けられなかった。

これまでを振り返って、あって助かった支援、欲しかったがなかった支援を挙げてもらいました。避難元によって受けられる支援が違っているので、受けられた人と受けられなかった人がいたものもあります。情報が得られず、対象者であったのに受け取れなかった支援もあったと思われます。また、公的支援ではなく、民間の支援につながり、支援を得られた方もいます。

Q10 発災から10年以上が経ちました。避難生活の中でよかったと思うこと、つらかったと思うこと、自分自身の気持ちの経過、今だから思うことなど、これまでを振り返ってのことをご自由にご記入ください。

- ・生活が落ち着いて、当時の不安や悲しみは薄らいでいるように感じる反面、言葉で説明できない心の穴がずっとふさがれないままです。でもアスチカがあるおかげで共有できる人や場があったことはとても大きいです。
- ・大きな変化（住まい、家族関係、子どものメンタル）も心身のショックもいろいろあったが、今はそれを経験したからこそ自分かなと思う。良くも悪くも図太くなりました。
- ・個人的には震災後結婚し、子どもも生まれた（=うれしいこと）と、父と母二人ともなくなった（=つらいこと）両方経験してそういう意味では大きな変化がありました。でも広島県へ来て、新たな土地でいろんな方たちに助けられ過ごしてきました。いいこと、悪いこと、両方行ったり来たり毎日。自分たちなりに頑張っている途中で
- ・家族と一緒に住み過ごす時間だったものを失われた時はとてもつらい。代わりに両親との時間は増えたが結婚したのに、とやはり何とも言えない気持ちになってしまう。
- ・生まれ育った地区から追い出され、苦しくつらい避難生活。そして慣れない土地での生活。近隣住民とのトラブル、夫の死。避難元の友人とのTELでお互い励まし合い、その中でアスチカとの出会いがあり、今の私がいる。広島にいても心から話せる友達はいない。
- ・自分には（アスチカに）何もお手伝いしてあげられない生活の余裕のなさを苦しく感じました。

- ・広島に来てあつという間の12年でした。なかなか良い仕事が見つからず、体調を崩すこともありました。生活がままならず(これはコロナの影響ですが)つらかったこともありました。今はつらいことが過去になり、楽しく働き、「生きること」に前向きになったと感じます。
- ・震災前より親子、兄弟間の絆が深まったような感じがする。半面孤独感が深まった感じもした。
- ・東日本大震災がなかったら…と思うことがあります。思い出したくないことは思い出さないようにしている自分を意識しないようにしているのですが、それが言えるようになった時が心の開放なのか…? やっぱりつらかったんだなあ~と思います。これがあつたからいろいろな経験も出来たんですけどね…。
- ・何人分かの人生を生きた気がする。
- ・精神的にも経済的にも余裕のない暮らしをしていたと思います。「うちって休みの日にちょっと遠くへ出かけたり、家族旅行をしたりとかしないよね。」と子どもに言われました。

Q11 お正月に能登半島地震が起きました。能登半島地震で心身に影響がありましたか?

- ・心臓がしめつけられたようで、涙が流れました。ニュースを見るのがつらかったです。
- ・不安な気持ちになりました。
- ・津波を思い出した。映像がよみがえってくると涙が出る。
- ・元旦早々の地震に、自分のことのように心が折れた感じがした。被災者の方の一日も早い復興をお祈りしています。
- ・家族みんながハラハラした出来事でした。子ども達も恐怖がよみがえったようです。ちょっと引きずっています。水や食品を買いだめ再開しました。
- ・東日本大震災当時のことを思い出し、つらく感じました。ただ、能登の地震では原発からの放射能漏れがないことが3.11との違い。ほっとしました。
- ・東日本大震災と似ていて、当時がフラッシュバックするようで映像をみるのがしんどかったです。申し訳ないと思いつつながらニュース映像からしばらく離れました。

Q12 今、楽しいこと、楽しみにしていることはありますか?

	回答数	%
はい	21	75.0
いいえ	3	10.7
無回答	4	14.3

娘の高校受験/新サッカースタジアム/子どもの高校生活/週末の畑ボランティア/歩くこと/子供の成長/旅行/家族とのレジャー/新しい仕事を始める/子供たちの成長/習い事/子どもとの時間/仕事/YouTubeの動画を見ること/映画鑑賞/図書館へ行くこと/息子の試合観戦/推し活/資格取得/時々外食で美味しいものを食べること/セルフビルド(家造り)/米作り/毎日の何気ない暮らし

- ・夏休みに福島の親戚と旅行に行く計画を立てているので楽しみ
- ・アスチカに行って避難者の人との会話と福島に行って友だちや同級生に会うこと
- ・東京に13年ぶりに行って、友人たちに会いに行こうと考えています。これは今まででは考えられないことでした。自分でもすごい変化だと思います。
- ・関東の専門学校に通う長男が、来年広島での就職を希望して就活していること。

Q13 アスチカに求めているもの、会員であることの原因は何ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
他の避難者と知り合うため	7	25.0
避難者同士のつながり(交流会などには出ずとも)	15	53.6
アスチカの発行物などが届くこと	11	39.3
支援情報の獲得	6	21.4
さまざまな催しの情報獲得	6	21.4
困った時の相談場所として	14	50.0
避難者であることの自己確認(「自分＝避難者」であることを確かにする)	4	14.3
精神的支え	12	42.9
避難者同士の情報交換のため	2	7.1
その他	1	3.6

(その他) ・スタッフが優しくしてくれて話をしてくれる。

・避難元とのつながりを感じられるから

Q14 あなたにとってアスチカの活動で必要なもの上位3つを選んでください。

	回答数	%
交流カフェ・出張交流カフェ	6	21.4
たねまく通信等の発行・お届け	15	53.6
「たねまく広場」の運営	11	39.3
「たねまく広場」でのイベント	5	17.9
メーリングリスト	2	7.1
民医連健康相談会の案内	6	21.4
支援情報の獲得・仲介	8	28.6
他の支援団との繋がり	3	10.7
会からのコンタクト(電話)	1	3.6
会からのコンタクト(訪問)	1	3.6
その他	0	0.0

「つながり」と「情報」の二つが求めることのキーとなっています。

情報が届くことは孤立していないことを感じる機会にもなっているようです。

アスチカの事務所兼交流スペース「たねまく広場」があること自体も、避難者のつながりを目に見えるものにしていて安心感を与えられているようです。

Q15 「アスチカがあってよかったと思った瞬間があれば教えてください。ささやかなものでもかまいません。

- ・定期的にアスチカから届くお便りを読んで、何と言ったらいいか…。私たちだけじゃないんだ、いろんなイベント等に参加は出来なくても他の皆さんとつながっているんだと安心感をいただけて、すごくうれしいです。
- ・ADR を紹介していただけたこと。
- ・少しの不安で心が揺らいだ時、用事でたねまく広場の方とお話するとホッとするから(したから)
- ・いろんな出会いをいただけたこと
- ・心の中でイザという時の精神的な支えです。やはり、頼れる先のない中での生活なので。
- ・たねまく広場に行き、スタッフの方とお話して近況報告や暮らしの話を出来ること
- ・避難者同士のつながりを持てた時
- ・広島へ引っ越してきた際の住居の手続きを手伝っていただき、大変助かりました。その後仕事がなかなか決まらなかった時も相談に乗っていただき、ありがとうございました。生活に困っていたことを相談し市から支援を受けられたこともアスチカさんのおかげです。
- ・北陸の地震をうけて「よりそう」と口にするのは簡単だけど、本当に 10 年単位のことなんだと改めて思いました。あり続けてくださって心から感謝しています。

Q16 アスチカを退会するのはどうなった時ですか？

(複数回答有)

	回答数	%
広島を離れる時	13	46.4
「もう避難者ではない」という気持ちになった時	1	3.6
支援や情報が必要なくなった時	0	0.0
自立できたとき	1	3.6
アスチカの活動終了時まで会員でいる	15	53.6
その他	0	0.0
無回答	2	7.1

それぞれが広島でいろいろな人や社会とのつながりを作って生活をしているが、3.11 をきっかけに広島で暮らすことになった者同士というコミュニティーは、会員にとって広島での生活が落ち着いたからといって必要なくなるものではなく、精神的な支えとして必要とされていると感じる。

Q17 広島の中で心を許せたり、頼り合ったりできる人とのつながりはできましたか？

	回答数	%
はい	19	67.9
いいえ	6	21.4

（「はい」の人）アスチカがなくとも成り立つ？		
	回答数	%
はい	16	84.2
いいえ	3	15.8
無回答	0	0.0

（「いいえ」の人）なぜ？（複数回答あり）		
	回答数	%
出会いがない	3	50.0
時間がない	0	0.0
出会う場に行っても見つからない	0	0.0
必要としていない	0	0.0
その他	2	33.3
無回答	1	16.7

（その他・自由記入）

•もともと人付き合いが得意ではないので、でも助けてくれたり、優しく声を掛けてくださる方はいます。

•避難者の気持ちを分かってもらえない。

全体を通して

今まで一番前向きな言葉が多くあったように思います。

広島暮らしもほとんどの方が 10 年を越え、大変さは変わらずあるにしても、それを受け入れて暮らしのペースが分かってきたと言えるのではないかと思います。避難者それぞれ、なかなか思うように行かなくても少しでもよい状況になるよう、避難してからの時間で頑張ってきたことが実を結んでいる部分も感じられました。

ただ、広島に何の縁もないまま避難した人は、ひとたび何かあったときには頼る先をあまり持っていない状況にあり、そこに不安を感じている人も少なくありません。避難者同士のネットワークを持つことは、その不安を少し和らげる役割を持っているように感じています。

子育ての終わりが見えてきた人たちは、避難の理由である「子どものため」というミッションが終わることも意識し始め、その後について考え始めているようです。